



著者プロフィール

白濱一羊（しらはま・いちよう）

昭和33年 岩手県水沢市生まれ
平成4年 職場句会をきっかけに作句開始
平成5年 「樹氷」入会
平成6年 「樹氷」新人賞受賞
平成7年 「樹氷」同人
平成11年 「俳句―燃えつきの詩型」で岩手芸術祭
文芸評論部門芸術祭賞

現在 社団法人俳人協会会員
岩手県俳句連盟理事
「樹氷」副編集長
朝日新聞「いわて俳壇」選者

〈句集『喝采』より転載〉〈2007年9月15日時点〉

『喝 采』（自選十五句）

白濱 一羊

涅槃図の破ればかりを見てをりぬ
もう声の届かぬ遠き卒業子
手枕に春眠といふ重さかな
香典で終る家計簿啄木忌
賑やかに手話教室の桜狩
みな少しづつは曲がつて葱坊主
客寄せは風任せにて風鈴屋
ふるさとの他人ばかりの祭かな
汗の子の火薬めきたる匂ひかな
打ち寄せしものをまた引き盆の波
露のせてゐて芋の葉の濡れてゐず
千枚田冬の怒濤と聞き合ふ
この雪の下に句碑ある信濃かな
親も子も溶けてひとつに雪兔
完璧といふ曲線の寒卵